

議事概要

会議名: 第1回三田市産業創造戦略見直し懇話会

日時: 令和6年4月16日(火)10時~12時

場所: 市役所 303A 会議室

1開会

2委員紹介

3議事

(1)三田市の産業について

意見なし

(2)産業戦略(素案)について 第1章、第2章

委員: 少子高齢化の中で介護や福祉の産業はこの戦略に反映しなくてよいか。

市 : 介護や福祉の分野に絞って戦略に記載するまでは考えていないが、「多様な担い手の確保」という施策の中に含まれている。

委員: 前期の振り返りの中で評価に濃淡がある。実施事業の中で周知が足りないものもあったのでは。「にぎわい」の中で、観光ビジョンなどと被りがあるので、整理した方がよいのでは。

市 : 現行の戦略は内容が多岐にわたっている。選択と集中の観点を取り入れ、この機会に整理をしたい。

委員: 後期素案2ページ、評価×とする理由がコロナ禍によるものであるが、2023年5月の5類感染症移行後、一応はコロナ禍前の状態に戻った中でこの数字になっていることをどう見ているか。時間がたてば戻ると楽観しているのか、それともコロナ禍の影響が続くと考えるのか。

市 : ご指摘のとおり。コロナ禍の影響が大きいところではキッピースクエアの数字はかなり縮小している。その他の項目はコロナ禍から戻りが十分でないところがある。広報や周知活動も改めて行う必要が当然あるし、数値を追い求めるだけでなく、使いやすいやり方を考えることも必要だと思っている。

委員: 逆に、コロナ禍でいろんなビジネスチャンスが生まれた側面もあると思う。

委員： コロナ後、いろんなところでイベントをしているので必ずしも特定の場所でなくてもよかつたのかもしれない。

(第3章、第4章、第5章、第6章)

委員： 基本施策の項目が 50 項目から 30いくつかの項目に減っているが、三田市の商工担当として、どこに力をいれるのか分かるようにしてもよいのでは。

市： 具体的施策の中で、目標値を決めているところが、重要と位置付けている項目になる。前期の計画からそのまま引き続けているものもあるので、他の打ち出しが必要かは一度考える必要がある。

委員： 中小企業の環境は厳しく、人手不足が大きな問題となっている中で、「就業機会の拡大」が「ひとづくり」にカテゴライズされているが、本来、人材、人手不足の整備は「ものづくり」ではないか。

市： 就業機会の拡大は、元々「まちづくり」にあったものを「ひとづくり」に移している。兵庫県の計画など、同じ取組を関連する複数の項目を位置づけているところもあり、検討したいと思う。

委員： 素案 14 ページ KPI4-②のところ、国の政策では女性、若者、シニアに力を入れて創業支援を行っていて、女性の創業支援に力を入れているところが多いが、三田市ではシニアだけになっているのは、人口構成からシニア層が増えているからか？

市： ニュータウン開発に伴い入居した世代が高齢者になられている。技術や経験をお持ちなので、それを発揮して地域で活躍していただけるよう力を入れていきたい。当然、女性や若者への支援も必要で、KPI としては挙げていなかったが、「女性活躍の推進」「子育て世代が働きやすい環境づくり」の項目の中で、新たな施策として取組んでいきたい。

委員： (素案 18 ページ)KPI で、企業の魅力発信の件数の目標値は、25 社か、それとも 25 回か。また、取り組み内容として、例えば地域の課題解決に貢献する企業やハイレベルなテクノロジーを使って活躍している企業等を冊子にするとか、市の広報誌やホームページに載せるのはどうか。学生に魅力が伝わる。

市： 25社ではなく、実施する回数として 25 回を想定。仰っていただいた冊子の作成や広報紙での紹介も検討したい。

委員：三田市は創業支援関係が充実しており、取組として魅力があると感じている。これを時代の変化へどう対応していくか、自由度を高めていくかでビジネスの可能性を拡大させることができると思う。

三田に住んでよかったと思っている。子どもが小さな喜びを体験して、大人になっても三田に住み続けたいと思うような体験を広げていくことが必要。

青野ダム等にもビジネスの種があると思う。創業者の声を聞き、制限や支障を取り除くのが行政の役割かなと思う。

市：事業所さんの直接の声を聞きながら対応できることは、担当部署等と連携しながら進めたい。

委員：素案 14 ページ4③「多様な担い手の確保」と 13 ページ1②～④は重複するのでは。

市：「多様な担い手の確保」は就労に関することに焦点をあて、ひとづくりの方は、機運醸成や、教育というところで整理した。

委員：17 ページまちづくり1-②インキュベーション機能のネットワーク化について、非常にいいと思ったが、実際どのような取組みがなされるのか。人の交流であればイメージできるが機能のネットワーク化は具体的なイメージを持っていなかったの確認したい。

市：インキュベーションについては、コアラボ、関西学院大学の施設それぞれの強みをいかして人材交流を含め補完しあう関係となるよう、今後、調整していきたい。

委員：17 ページ基本施策3 「子育て世代の活躍支援」について、具体的施策を見ると環境の整備だと思う。ひとづくりと重なるので環境整備に焦点を当てた書き方に変えてもいいのでは。

市：環境整備を意識した書き方を検討する。

委員：どういうことをやって、どういった効果があったのか？市政にどう影響したかもう少しわかりやすくした方がよいと思う。

人口が減少しているが、呼び込み策がない。住宅地をもう少し増やすことも必要。

まちづくりという意味では交通インフラの観点をいれていただけたら。2024 年問題として運転手不足が全国的な問題。バスの運転手不足の影響は大きい。企業の存続にも関わってくる。本当に三田でいいのかというような話も出てくる可能性もあると個人的には思う。そういったことも踏まえてバス路線や鉄道の本数ももう少し見直してもらえたらと思う。

私も三田市で子育てをしていたことは非常に良かった、住んでよかったという思いがあったが、最近その魅力が縮小していると感じる。

SDGsの取り組みとして温室効果ガスの排出削減に取り組んでいるが、なかなか決定打がない。市と企業が連携してお金を出し合い植林をすれば、温室効果ガスの排出削減につながる。三田市で取り入れていただけたらと思う。

市： 企業から人材不足の話をよく伺う。三田のまちのイメージ向上が必要。住環境や子育てのPRをどう打ち出して人を呼び込んでいくかが重要ではないか。

産業はいろんな分野が関わるのでどこまでこの戦略に書き込むのか、それぞれの分野に個別計画があるので、相互関係の中で整理したい。

委員： 三田市は、元気な中小企業が多い、大学もあり、学生として三田に来て残る人たちも多い、テクノパークがあり大企業がある、大阪や神戸が近い。こんな揃っているところはない。この魅力をどう活かしていくのかと考えると、インキュベーション施設はすごく重要。

既存の事業者への施策も大切で、働く世代は取り合いなので、女性やシニア、外国人など対象者が集まる場所はあると思うので、既存の事業者やテクノパークの企業へマッチングをしたら喜ばれるのではないか。人材紹介系の会社と組んでパッケージでやってもいいと思う。

元気な中小企業は多いが、中堅レベルの企業は意外と少ないという状態だと思う。社会課題との連携や、関学のテックとの連携など、既存事業者を巻き込むインキュベーションのあり方を考えてみるとよいのでは。

新たなビジネスモデルの構築は重要。ものづくりの評価で×となっていた箇所。連携を作るだけでなく、テクノパークと連携して、実証実験を行う、あるいは、関学と一緒に何かするなど。課題についても市は掲げた課題に対して解決策を募集しがちだが、提案型を取り入れてみる方がよいのでは。三田市のポテンシャルが生きそうなどところもある。保育園や老人ホームで実証実験を受け入れることも考えられる。

19 ページ事業者がテクノ協議会だけになっているが、商工会の事業所も記載して一緒に推進していく。商工会とJCと一緒に会するとよい。

市： 関学との連携は、今後調整して進めていきたい。

協議会での新たな事業の実施については、これまでは話し合いの中で進めていく形であったがアプローチが上手くいかず、アイデアを生み出すのも難しかった。三田市にも連携の推進部署ができたので、今後、実証実験等、事業者を集めながら一つでも多く創出できるようにしていきたい。

委員： かつて、三田まつりは駅前全域で実施されていたが、今は縮小されている。外部から人が来る楽しいイベントを積極的に行ってほしい。

市：かつては、商店街の協力のもと賑わいづくりが可能であったが今は難しい。別の形での仕掛けが必要。地域振興株式会社がまちづくり会社を設立したので、今後まちづくり会社を通したイベントなど賑わいづくりを検討していくこととなる。

JCさんが駅前広場や市役所前広場を使ってイベントしてくださっているが、既存のイベントと連携することも考えられる。場所の活用については市としてバックアップできると思っている。

委員：子育て世代20～40代のへの対策が遅い。一番頑張ってる働く世代に住んでもらって働いてもらえたら。

市：子どもを核としたまちづくりは、市長の重点施策。今後もお話を聞かせていただきながら進めていけたら。

5閉会